

話の広場

シリア・ラマダン特集 2004

- ラマダン初体験を JOCV 5名がレポート -

ラマダンは、イスラム暦第9番目の月で、この期間は食に困る貧者の苦しみを体験することで他者への思いやりを育むために断食をする月となっています。また、次の4つのことが勧められています。

- 1) 聖クルアーンを読むこと。
- 2) 慈善行為をすること。
- 3) 喜捨(ザカート)をすること。
- 4) 欲望に打ち勝ち、正しい行いをすること。

本企画はイスラム教の中で、最も特別な月である「ラマダン」について、「普段と違うシリア発見」、

「イフタルの様子」、「断食体験」など、何でもラマダンに関する記事を投稿してもらいました。

シリアでは10月15日から30日間のラマダンに入りました。ラマダン明けの休暇もその後11月14日から16日まで3日間あり、金、土と合わせて5日間の連休となりました。どの世界でも「苦あれば楽あり」です。

シリア在住のJICA関係者もラマダン期間中には別のシリアが発見できたものと察するところです。

皆さんもこの企画を参考に、イスラムの最も特別な月「ラマダン」を知ってもらえれば幸いです。



事務所員、家族でイフタル
大砲の音が鳴ったら食事をスタート

特集(その1)

ラマダンと仏教徒

中山 正和 (JOCV 16-1)

野菜：ダラー農業試験場

10月15日、生まれて初めてのラマダンが始まりました。数日前からウキウキし始めたシリア人たちにつられ、ウキウキしながらラマダンに突入しました。

お茶がないと寂しい

勤務先であるダラー農業試験場ではラマダン中は終業時間が通常よりも1時間早くなり午後2時までの勤務となります。勤務時間が1時間減っているにもかかわらず仕事がやたらと長く感じる、なんだろう?・・・それは食事もお茶も出ないからで、普段朝食を試験場で同僚達と食べ、暇さえあればお茶を飲んでいる私にとって、食事もお茶も無いという状況は何か物足りなく寂しいものでした。いつもどれだけ多くの時間を飲食に使っていたかということに改めて感じました。

断食に挑戦

さて、今回私は平日仕事のある日だけはシリア人と一緒にラマダン(断食)しようと思い、朝3時半に起き夜10時に寝るという生活を続けました。職場でもスタッフやお客さん、農家さんなど会う人みんなが「サイム?(ラマダンしてる?)」と聞いてくるので「サイム!(してるよ)」と答えると相手は嬉しそうに「ホントに??」となって友好的に会話を進めることが出来ます。

しかし、同僚である技術者仲間に話すと「マサ、何やってるんだ!」とか「お前は仏教徒だろ!」という全く反対の反応が返ってきます。彼らは私を諭すように「人間は自分が正しいと思ったことだけやればいいんだ!」と言い、ついには「宗教を変えるな!!」と

怒り出す始末です。

シリア人は宗教に寛容?

私は今までシリア人といえばイスラム教以外は宗教と認めず、事あるごとに改宗を迫ってくる人達だと思っていたので、この彼らの反応にはとても驚きました。

シリア人(イスラム教徒)と一口に言っても、そこには様々な考えを持つ人がいるのだ、という基本的な事をこのラマダン期間中に再認識することが出来ました。

・・・それにしてもラマダンをしてシリア人に怒られた日本人は私くらいなのではないでしょうか??



ダラー農業試験場長と
左長澤所長、右筆者

特集(その2)

ありえな~いっ!!!

板倉 幸子(JOCV 16 1)

養護: ホムス脳性まひセンター

私にとって初めてのラマダンは、ダマスカスでの語学訓練を終え、活動先のホムス市に住むようになってからちょうど1カ月後に始まりました。これまで耳に入っていたのは悪評ばかり。さて一体どうなることやら。

なんちゃってラマダン

まずは自分でも体験をと思いましたが、いきなりの断食は体に悪いので、体慣らしに減食からスタートです。朝は夜明け前に食べ、活動から帰って少量を食べ、日没後にいつもどおりの夕食をとるようにしました。そうしたらなんと! わずか10日足らずで、体重が3kgも減ってしまったのです。うっ、嬉しい~(涙)が、しかし! 急な減量はリバウンドのもと。かくして私の「なんちゃってラマダン」は、あえなく2週間足らずで中断となりました。



アイド(ラマダン明け休暇)直前

私はラマダン・フォロー要員?

さて一方で、活動先はどんな様子であったかというところ、これが「トホホ...」だったのです。私は毎日、

脳性まひセンターのセルビスで通勤しているのですが、ラマダンに入ってからというもの、運転手さんの運転が荒れまくって、何度路上で他の運転手さんと口論になったことか。相手の車に追いつけられたこともありました。

また、センターではラマダンに入って以来欠勤している先生はいるし、他にも一人二人は休んでいる状態。担任の先生が休むたびに「サシヨ(私のこと)今日はここのクラスね。」と日替わりメニューで頼まれ、まるで私は「ラマダン・フォロー要員」のようでした。名前も知らず、実態もよくわからない子どもたち。6~8人ほどの車椅子の子どもたちを前にして、アラビア語もおぼつかない外人先生が一人。目が点とは、こういう状態を言うのです。「ありえな~いっ。」と心の中で叫びつつ、ひきつった笑顔と気力で乗り切る日々でした。(愚痴メールにお返事を下さった皆様に感謝!)

エネルギー切れに納得

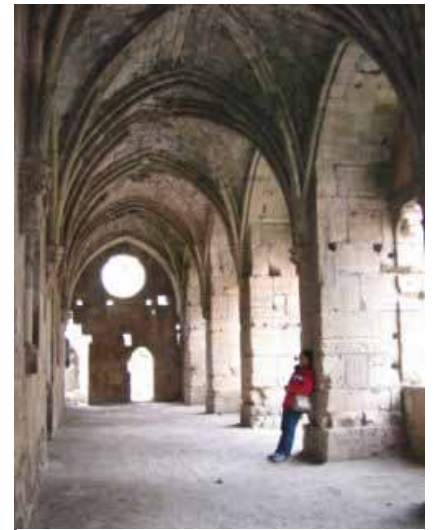
中には頑張っている先生もいましたよ。きっちりと授業をして、子どもたちが張り切って答えている姿も見ましたから。しかしそんな先生も、3時間目が終わる頃にはげっそりしてくるのです。夜遅くまで起きて食べているそうだし、主婦でもある先生たちは、料理などの支度も大変なのでしょう。睡眠不足で、しかもエネルギーが切

れてくるのですから、疲れて言葉少なになっていくのも仕方ない...と、妙に納得してしまう私でした。

たくさん名前を覚えた

こうして「初ラマダン体験」は終わるのですが、休んだ先生の代理をしてみていると気づいたこともあり、子どもたちの名前もたくさん覚えることができました。それなりに収穫はあったのです。それに、5時を境にまるで別の街かと思うほどひっそりとして、人気(ひとけ)がなくなっていたホムスの大通りは、美しい夕暮れの街として思い出に残りました。

今はまだ、シリア生活3カ月。もっともっとこの国のこと、人々のことを知ったら、次回はまた違う気持ちでラマダンを体験できるかもしれません。どうか、そうでありますように。



シュバリエ城にて、ホムス近郊にある

特集(その3)

シリアモスク紀行 - ホムス編

武智 剛人(JOCV 15-3)

理学療法士: ホムス脳性麻痺センター

断食していない子に好感

ラマダンがやってきた。「サーイム(断食)している?」と聞いてくる子供達。夜思いつき食べて、太陽が出ている間はまったく食べないなんて、健康に悪いと思って

いる私はもちろんしているはずがない。ここは「シュワイ、シュワイ(少しずつ、少しずつ)」と訳の分からない返答でごまかす。彼らにとって、神への信仰心が最高潮に高まるラマダンでの断食は、大

人になるひとつの行為なのである。

断食している子供達は皆得意げに聞いてくる。もちろんしていない子は聞いてくるはずもなく、「してない...」と小さい声で答える。私はむしろしていない子供達に好感を抱いてしまう。別にラマダン中に食べることは悪ではないのだ。むしろ、断食していないのに断食

していると言ってしまう弱い心が問題になるのであろう。正直でヨロシイ！逆に断食していないのに断食していると嘯いている大人がなんと多いことか（推測）。



サーイムしていないムハンマド君

信仰心が高まるラマダン

さて、昨今の中東情勢の混乱により、良くも悪くもアラブ文化が世界に発信されている。特にラマダン中のイスラム教徒の信仰心が高まるということは大きく報道され、私も普段とは違う人々の動向に感心を持った。普段の5回のお祈りに加え、夜中の6回目のお祈り「タラウィー」が加わることを始め、普段クルアーン（コーラン）を持ち歩かない人がクルアーンを持ちだしたり、お昼のお祈りがいつもより長かったり（その間の仕事はほったらかしだが）とその片鱗を見ることができた。

その極めつけとしてラマダンの

最終週の金曜日の公式礼拝での様子を見た。人々の宗教心がラマダンの中で最も高くなると聞いていたからだ。場所はホムスの有名なKhaled Ibn al Waleed Mosque。礼拝堂に入れない人々は礼拝堂からあふれ、イマーム（導師）のありがたい説教を人々は外にしかれたゴザに座って頭を垂れて聞いている。なるほど確かに人々は集団礼拝を良しとし、多くの人々が神に祈りを捧げている。



金曜礼拝に集まったホムスの人達

礼拝よりも食事？

これがイスラム世界の祈りの深さか...と感心していたところ、帰りのスーク（市場）でのなんと人の多いことか。優にモスクでの人の何十倍は集まっている。まだありがたい説教は続いているというのに。やっぱり多くの人はお昼の集団礼拝より、モウイフタール（その日の断食明けの食事）のことが

気になる様子。「人は弱きもの」とされているクルアーンの教え通りに実践しているシリア人を見て、これはこれで人間臭さを垣間見ることが出来た。だから宗教ってものが気になるわけだ。



大祭礼日の日の出の礼拝の様子

さて、ラマダンが終わるとイード・フトゥルの大祭礼が始まる。この初日、日の出とともに小祭礼日の礼拝が行われる。ダマスカスでは大統領もこの礼拝に参加し、神のもとには大統領も一人の人間として扱われた。ホムスでも同じ時間に、小祭礼日の礼拝が粛々と行われた。人々が宗教とともに息づいているシリア。特別身構えることもなく、楽しんでいるようにも思える。だけど、お腹が空いているのはやっぱり我慢できない。私もラマダンが終わったことをシリアの人々とともに感謝するのであった。

特集（その4）

空腹を忘れた瞬間

松崎靖彦（JOCV 16-1）
体育：UNRWA

ラマダン中は授業時間が短縮され、通常よりも一時間ほど早い終業時間を迎えます。そこで、ハマのパレスチナ人地区ではこの時間を利用して、若さ漲る中学生から貫禄ある60歳代の老夫までもが参加する老若混合サッカー大会が開催されました。大会は連日、終業の鐘がなるのが先か、見学者がグラウンドに押し寄せるのが先かわからないほどの盛り上がりを見せました。



試合を見に来た子供たち

授業中、机に突っ伏していた生徒も地べたに座りこんでいた生徒も試合の時間が近づくと水を得た

魚のように元気になります。驚いたことに学校を休んでいた生徒までもが寝巻きのような格好のまま、試合を見にやってくるのです。



支援経費で作成したピブスが大活躍

試合が始まるとみんな空腹を忘れ、応援に熱中し、試合の流れに一喜一憂します。私は赴任して3ヶ月、活動が思うように行かずに悩んでいた時期でしたが、このときばかりは夢中で声援を送りました

た。不思議なことに、活動外の時間を生徒たちと共有したことでそれまで悩みもちっぽけなものに思えるようになりました。



食後のデザートを頂く

日が落ちて試合が終わる頃になるとあちこちの家からいい匂いがしてきます。ここで空腹が甦り、皆匂いに釣られるように家路を急ぎます。厚かましくも私も毎晩ご飯をご馳走になりました。

赴任前はラマダンに対して「みんなイライラしているのではないだろうか、一日中家に籠っているのではないだろうか」などといったマイナスイメージを持っていましたが、実際にシリアに来て、人々と関わって、ラマダンが辛く苦し

いだけのものではないということ学びました。この一ヶ月、情報誌には載っていないシリアをおなかいっぱい味わうことができました。



UNRWA ハマ教員生徒混合チーム

特集(その5)

シュワイ・ラマダーン

高橋 朋子 (JOCV 16-1)
保健師:UNDP ジャバラル・ハス

はやいもので赴任して4ヶ月が経ちました。そして待ちに待ったラマダーンがやってきました。なぜ待ちに待ったかという・・・。シリアに来るのを楽しみにしていた私は、イスラム世界の大イベントであるラマダーンが実際どんなものであるのか、とても興味があったのです。

ラマダーンは眠い

ラマダーンに入って変わったこと。それはまず職場でお茶を飲むことがピタリとなくなったことです。当たり前なのですが、「あーラマダーンに入ったんだなあ」としみじみ感じました。

第2に商店街がとても賑わっていることです。それにいつもは売っていない食べ物や飲み物が置いてあります。タマルヒンドという黒い飲み物がその代表的なものではないでしょうか。一度飲んでみたのですが、味の方は・・・。空腹のところいきなり食べると体に悪いというので先にこの飲み物を飲むらしいのですが、かなりクセのある味に一口で音を上げてしまい

ました。来年はもう少し飲めるようになると思います。

第3にうちの近くのレストランが夜中までとてもうるさくなったことです。ももとシリアの人たちは宵っ張りですが、ラマダーンに入って更に睡眠時間が短く、生活が不規則になるようです。一応保健師として「早く寝た方がいいよ・・・」と試してみたりもしますが、まあそれが何百年も続いているのでいいのでしょうか。

歯科は開店休業？

健康ついでにもう一つ。活動先の村の一つに、歯科も備えた診療所があるのですが、ラマダーン中は患者さんの数がぐっと減るそうです。理由は「口の中にモノを入れる行為だから」。詰め物が取れても、痛くてもガマンするみたいです。ここまでくるともう応援するしかないという気がします。

私の目下の心配は、前述のレストランがラマダーンの後もうるさいのではないかとということ・・・。このまま私も一緒に睡眠不足になっていきそうな予感がします。



伝統的な家が残る村、ジャバラル・ハス

ところでみなさまは断食体験されたのでしょうか。

私の場合、朝はいつもと同じ時間にしっかり食べて、それ以降はモスクの合図があるまで食べないという「ちょっとラマダーン(えせラマダーン?)」をやっていました。職場の人に「ラマダーンやっている？」と聞かれて答えていたのが表題の「シュワイ・ラマダーン」。これって言葉の使い方間違ってますよねえ、先輩隊員の皆さん？それでもシリアの人たちはわかってくれたようです。いやもしかしたら「そんなのラマダーンじゃないよ、フン！」と思われていたのかもしれません。

初めてのラマダーンはいつもと違うシリアの姿が見られて楽しかったです。ムスリムの皆さま、お疲れ様でした。

来年はまた違った体験ができればいいと思います。

We are on
the WEB.
See us on
www.jica.go.jp
www.jicasr.org

お知らせ

本ニュースレター配信ご希望の方は当事務所まで氏名、メールアドレス、JICAとの関係(所属)を連絡願います。

編集後記

ラマダンも終わり通常の生活に戻りました。前日までラマダン入りの日が決まらず、また、前日までラマダン明けの日も決まらず、スケジュール調整に追われていた我々は一体何だったのか？と考えさせられました。11月末になり急に雨が多くなり、冬が駆け足でやってきました。これからの季節、風邪に要注意は日本も、シリアも同じです。(K.N)